

## 大相撲における女人禁制の研究 (II)

—— 大相撲観戦者の基礎データ ——

了海 諭\*<sup>1</sup>・生沼芳弘\*<sup>2</sup>・山本恵弥里\*<sup>3</sup>

## A Survey of Nix Women in the Sumo Ring (II)

—— A Basal Date of Sumo Spectators ——

by

Satoru RYOKAI, Yoshihiro OINUMA and Emiri YAMAMOTO

### Abstract

There are many studies of sports watching but it is few about watching ground Sumo tournament.

In 1957 (Showa 32 years), Wakamori investigated. However, it was not continuous study of trend of Sumo spectators since the research period was very short (only beginning three days of one tournament). Also, Oinuma et al (2004) researched about the proportion of men and women in tournament galleries but it didn't refer to their background which is like age, occupation and experiences of watching tournament.

The purpose of this study was to derive the continuous basal data of Sumo spectators by questionnaire which carried out through 4 times (Osaka, Tokyo, Nagoya and Fukuoka) of Sumo tournament in a year.

### I はじめに

9月11日(日)から9月25日(日)まで行われていた平成十七年度九月場所(東京・国技館)は、モンゴル出身の横綱朝青龍が38年ぶりとなる6場所連続、14度目の優勝を果たした。この九月場所では、ブルガリア出身の関脇琴欧州に前相撲から18場所という史上最速優勝の期待もかかり、各種

メディアも大きく取り上げ、話題となっていた。そうした中、懸賞総本数が1本6万円となった平成三年(1991)夏場所以降では史上最多となる合計952本の懸賞がかかり、千秋楽での結びの一番横綱朝青龍対大関栃東では史上最多の49本の懸賞がかかった。千秋楽の切符は完売し、注目度の非常に高い場所であったことが伺える。

平成元年(1989)十一月場所(福岡)11日目か

\* 1 東海大学体育学部非常勤講師 \* 2 東海大学体育学部体育学科 \* 3 東海大学大学院体育学研究科

ら平成九年（1997）五月場所（東京）初日まで46場所（約9年間）続いた「満員御礼」も、近年では初日や千秋楽といった週末にしかでないのが現状であった。こうした中での「切符完売」、「史上最多の懸賞数」は人気低迷からくる観戦者数の減少に歯止めをかける兆しとして捉えることもできよう。

こうした大相撲人気の低迷や観戦者数減少の背景を探るため、生沼らは（財）日本相撲協会の許可のもと、大相撲観戦者に関する調査を行った<sup>2)</sup>。本研究はそれに引き続き行った調査から、大相撲観戦者の基礎データを得ようとするものである。

## II 大相撲観戦に関する先行研究

スポーツ観戦に関する研究が多く見られる中、大相撲観戦に関する研究や調査は数少ない。昭和32年（1957）に和歌森太郎が調査を行っている<sup>3)</sup>が、この調査も1つの場所の初日、2日目、3日目だけの調査であり、本人がその報告の中で「これをもって相撲観客の傾向を云々することは、いささか早計のそしりをまぬがれない」と言っているように、大相撲観戦者の動向を測る継続した調査ではなかった。

生沼らは大相撲観戦者の男女比について報告している<sup>4)</sup>が、これは時間ごとの入場者数とその男女比のみをまとめたものであり、年齢や職業といった観戦者自身に関するデータや、観戦経験等まで言及するものではなかった。

## III 調査方法及び内容

本調査では、平成16年（2004）3月（大阪場所）、5月（東京場所）、7月（名古屋場所）、11月（福岡場所）において観戦者数及び大相撲観戦

に関する質問紙調査を実施した。

観戦者数の調査は、各入り口にカウンターを持った調査員を配置し、男女それぞれの観戦者数を30分ごとに集計した。質問紙による調査内容は大相撲観戦・観戦者自身・大相撲の女人禁制などの伝統に関する意識に関してのものである。

調査会場及び調査日、質問紙配布数及び回答数は表1の通りである。そこで、今回は大相撲観戦者の基礎データを中心として、以下の項目について単純集計後男女別にまとめた。

### 1. 観戦者について

- 1) 30分ごとの入場者割合
- 2) 男女比
- 3) 年齢・年代
- 4) 職業
- 5) 婚姻

### 2. 大相撲観戦について

- 1) 観戦経験
- 2) チケット種類
- 3) チケットの入手方法

## IV 調査結果

### 1. 観戦者について

- 1) 30分ごとの入場者割合

開場からの入場者を30分ごとに集計し、男女別にまとめた。男性は大阪・福岡場所で3：30～4：00に最も多く来場している。名古屋場所では3：00～3：30に最も多い。東京場所は2：30～3：00に最も多く来場しており、調査した4場所では最もピークが早かった（図1）。

女性は大阪場所で2：00～2：30に最も多く来

表1 調査概要

場所	会場	調査日	配布数	回答数	回収率
3月 大阪場所	大阪府立体育館	3月20日（土）7日目	400	283	71%
5月 東京場所	国技館	5月15日（土）7日目	400	282	71%
7月 名古屋場所	愛知県体育館	7月14日（水）11日目	300	200	67%
11月 福岡場所	福岡国際センター	11月23日（火）10日目	300	165	55%
合計			1400	930	66%

場しており、調査した4場所の中ではもっともピークが早かった。東京場所は2:30~3:00, 名古屋場所は3:00~3:30, 福岡場所では3:30~4:00に最も多く来場している(図2)。

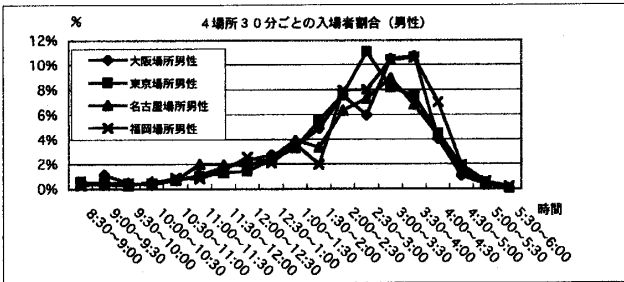


図1 30分ごとの入場者割合(男性)

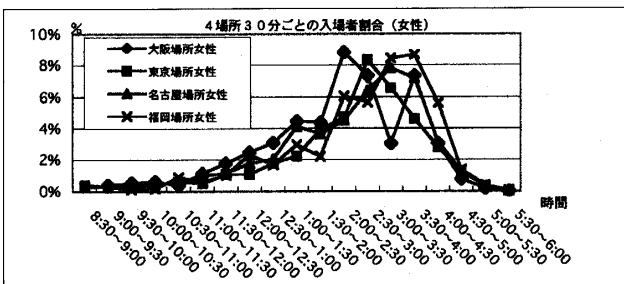


図2 30分ごとの入場者割合(女性)

2) 男女比

各場所での来場者の男女比は名古屋場所で5:5であった。それ以外の3場所では大阪場所58.27%, 東京場所56.23%, 福岡場所58.18%と男性の来場者が女性より多かった(図3)。

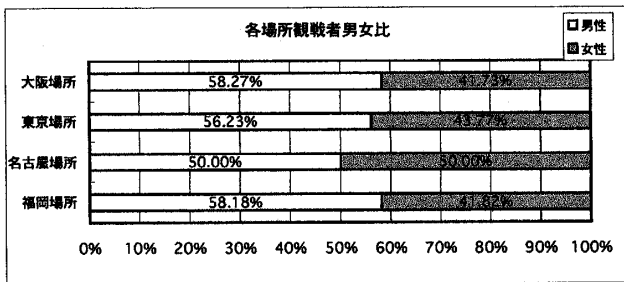


図3 各場所観戦者男女比

3) 年齢・年代

アンケート回答者のうち、最年少は大阪場所の6歳(男性)で、最年長は東京・福岡場所の84歳(ともに男性)であった。平均年齢は大阪場所男性44.92歳女性42.15歳, 東京場所49.70歳女性44.33歳, 名古屋場所男性54.43歳女性49.52歳, 福岡場所男性49.53歳女性46.38歳とどの場所でも男性のほうが高かった。名古屋場所のみ男性の平均年齢が50歳を超えた(図4)。

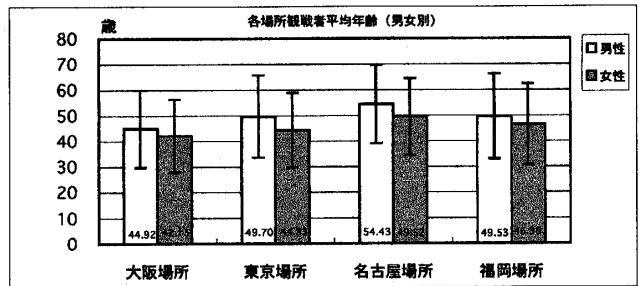


図4 各場所観戦者平均年齢

来場者の年齢を年代別に分けてみると、男性では大阪・東京場所で50歳代が最も多く(大阪場所14.75%, 東京16.73%), 名古屋・福岡場所では60歳代が最も多かった(名古屋場所12.50%, 福岡場所15.15%, 図5)。女性では大阪・東京場所で30歳代が最も多く(大阪場所9.71%, 東京場所12.10%), 名古屋・福岡場所では50歳代が最も多かった(名古屋場所13.00%, 福岡場所10.30%, 図6)。

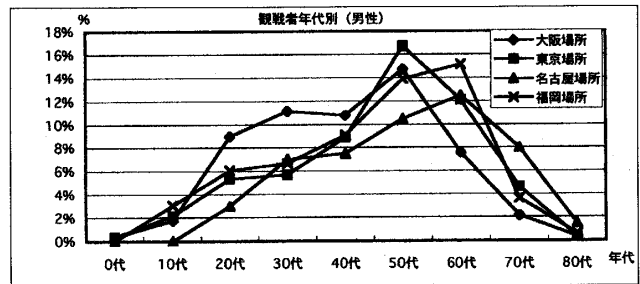


図5 各場所観戦者年代(男性)

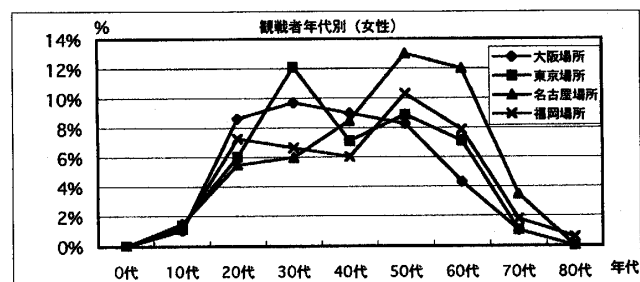


図6 各場所観戦者年代(女性)

4) 職業

職業は(1)会社員・公務員(2)自営業(3)パート・アルバイト(4)大学・短大・専門学校(5)中・高校生(6)専業主婦(7)無職(7)その他の7項目に分けて質問した。

男性ではすべての場所で会社員・公務員の割合が最も多かった(大阪場所35.46%, 東京場所33.45%, 名古屋場所20.30%, 福岡場所31.90%, 図7)。女性では大阪場所で会社員・公務員の割合

が最も多く (15.96%)、東京場所では会社員・公務員と専業主婦が同数で多く (14.95%)、名古屋・福岡場所では専業主婦の割合が最も高かった (名古屋場所16.75%、福岡場所14.72%、図8)。

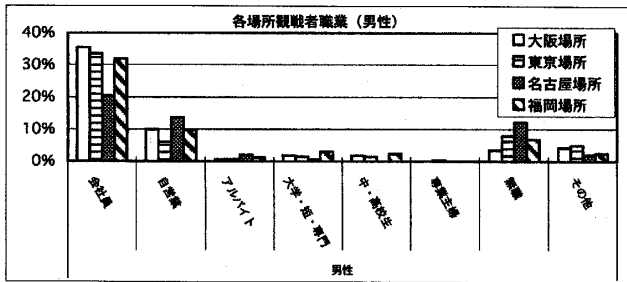


図7 各場所観戦者職業 (男性)

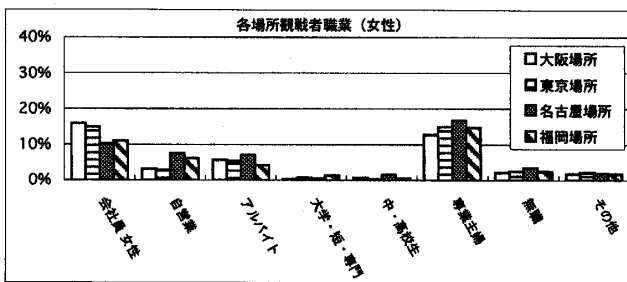


図8 各場所観戦者職業 (女性)

5) 婚姻

すべての場所で男女とも既婚者の割合が最も多かった (図9, 図10)。

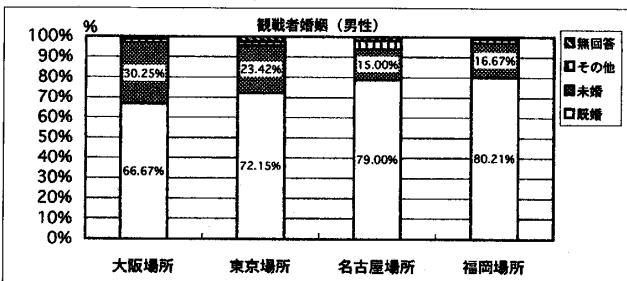


図9 各場所観戦者婚姻 (男性)

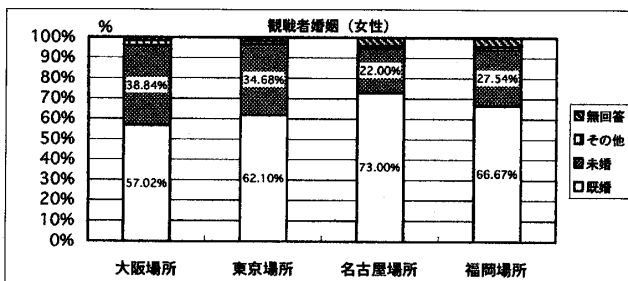


図10 各場所観戦者婚姻 (女性)

2. 大相撲観戦について

1) 観戦経験

すべての場所で男女とも観戦経験2回以上と答

えたものの割合が多かった (図11)。

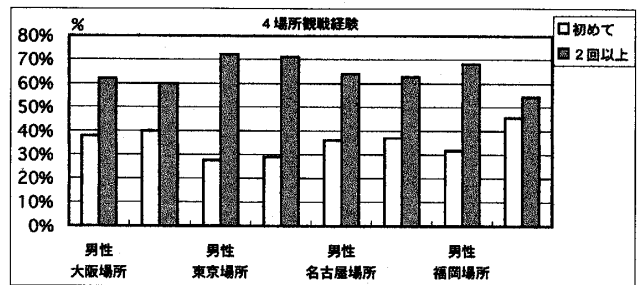


図11 各場所観戦経験

2) チケット種類

チケットの種類は(1)溜席(2)柵席(3)イス席(4)その他の4項目に分けて質問した。

男性では大阪・名古屋・福岡場所で柵席の割合が最も多く (大阪場所60.60%、名古屋場所63.92%、福岡場所64.21%)、東京場所ではイス席の割合が最も多かった (49.37%、図12)。女性も大阪・名古屋・福岡場所においては柵席の割合が最も多く (大阪場所64.71%、名古屋場所60.20%、福岡場所74.63%)、東京場所ではイス席の割合が最も多かった (50.00%、図13)。

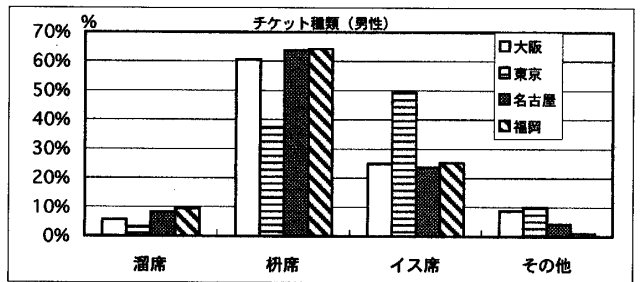


図12 各場所チケット種類 (男性)

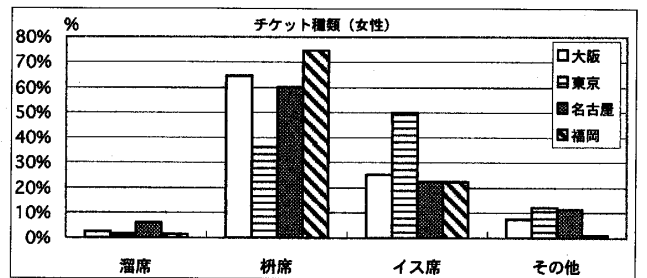


図13 各場所チケット種類 (女性)

3) チケットの入手方法

チケットの入手方法は(1)切符売り場(2)相撲案内所(茶屋)(3)相撲協会電話予約センター(4)チケットぴあ(5)コンビニエンスストア(6)プレイガイド(7)旅行代理店(8)JCB大相撲倶楽部(9)知人・友人から(10)取引先などからの接待(11)その他の11項目に分

けて質問した。

男性では大阪・東京・名古屋場所において現地切符売り場での入手(購入)が最も多く(大阪場所24.69%, 東京場所33.77%, 名古屋場所29.59%), 福岡場所では知人・友人からの入手が最も多かった(28.72%, 図14)。女性では大阪・福岡場所では知人・友人からの入手が最も多く(大阪場所31.93%, 福岡場所36.76%), 東京場所では現地切符売り場での入手(購入)が最も多い(33.33%)。名古屋場所ではその他での入手方法が一番高い割合であった(29.00%, 図15)。

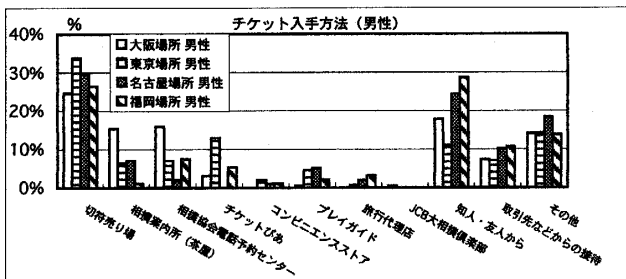


図14 各場所チケット入手方法 (男性)

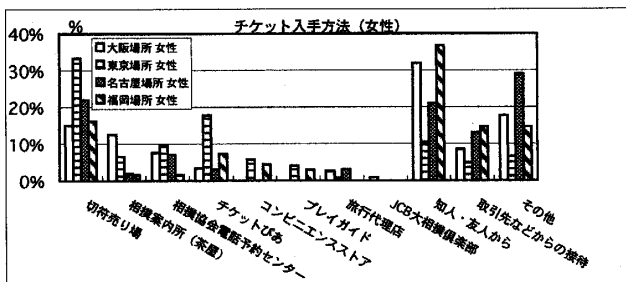


図15 各場所チケット入手方法 (女性)

## V まとめ

開場と同時に始める調査であるが、入場者が多く訪れるのは午後1時を過ぎてからであり、そのピークは横綱・幕内力士の土俵入りが行われる午後4時までであった。観戦者の男女比は名古屋場所の5:5を除けばどの場所も男性のほうがやや多かった。平均年齢はどの場所も男性のほうが高く、年代別にみても男性は50歳代、60歳代が多いのに比べ、女性では大阪・東京場所で30歳代の観戦者が目立った。婚姻に関しては性別・場所に関わらず既婚者の割合が50%を超えていた。

観戦者の職業は男性では名古屋場所を除き会社員・公務員が多かった。名古屋場所では自営業と無職が多かったが、これは調査日が名古屋場所のみ平日に行われたことが影響していると考えられる。他の場所では大阪・東京場所が土曜日、福岡場所が祝日であったことから、仕事が休みの会社員・公務員の観戦者が多かったのではないだろうか。女性では東京・名古屋・福岡で専業主婦の観戦者が多い結果となった。

大相撲の観戦経験をみても、性別・場所問わず2回目以上と回答したものが多い。チケットの入手方法は大阪・福岡場所の女性観戦者、福岡場所の男性観戦者は知人・友人からの入手が多い。こうした結果から、観戦者の増加には新規観戦者の開拓と、チケットの購入意欲を促す相撲内容やプログラムの考案が必要だと考えられる。

上述したように、今回の調査では大阪・東京場所が土曜日、名古屋場所が平日、福岡場所が祝日と調査日を統一できなかった。大相撲本場所は東京都、大阪府、愛知県、福岡県で開催される。大相撲観戦者の場所ごとの特性や、初日・中日・千秋楽での違いをより明確にするには、調査日の統一や一場所内で複数回調査を行うなど検討しなければならないだろう。

## 引用文献

- 1) 読売新聞 2005年9月25日
- 2) 生沼芳弘・了海論・山本恵弥里 (2004) 大相撲九州場所観戦者の調査—大相撲におけるジェンダーの研究—日本スポーツ社会学会第13回大会研究大会発表抄録集 p35~p36
- 3) 和歌森太郎 (1957) 大相撲観客調査結果報告—夏場所観客の生態と表情を探る—「相撲」昭和32年8月号 ベースボールマガジン社 p203~p222
- 4) 生沼芳弘・了海論・山本恵弥里他 (2004) 大相撲における女人禁制の研究 (I)—大相撲観戦者の男女比—東海大学紀要体育学部 第34号 p25~p33